

# ¡Hola, amigos!

第085号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年11月11日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは084号(11月04日)、083号(10月21日)

082号(10月14日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



## 「マルタ」の巻

皆さん、こんにちは。金曜日に寒冷前線が通過して、土曜日はやや寒くなりましたが

日曜は久しぶりのピーカンの快晴で午後には暑いくらいの日差しになりました。

こうなると大理石フロアーのウチの中にジッとしているのが一番寒く、浜に下りるのが大正解。ベランダも午後は温室同様です。でも暑い暖かいと油断していると、日没と共に急に気温が下がり血管運動性鼻炎持ちのRには危ないことになります。この鼻

炎は花粉やハウス・ダストには反応しませんが、急激な温度変化に弱いんです。

スーパーの中なんかでも、冷蔵食品の棚は要注意、野菜の棚も近づかないほうが得策です。上に引っ掛けるものを持っていないとき、そういう所はNに任せて、もっぱらビーノ、セルベサの売り場に避難します。

冬至まで約40日となった今、太陽は真正面から5度位右手に沈んでいます。

去年、初めてここで冬を越したわけですが、冬至の頃、太陽は丁度真正面に沈んでいた筈。一日一日の変化はわずかですが、こうして改めて思い出してみると夏至から冬

至、そしてまた夏至と自然は確実にその姿を変えています。

遠い昔の人はその変化の度合いを克明に記録して少しずつ自然の仕組みを解明して来たんですね。今、天文日没は18時17分。天文日没または真日没、憶えていますか？

太陽の下辺が、視水平線上、視半径分だけ浮いている時、というアレです。こうなるともうサンセット・ディナーは早すぎて、夕食は暗くなってから部屋の中で・・・。

最近日出は目撃していないのではっきり言えませんが、8時過ぎになっているのでしよう。夜が白むのは7時半過ぎで、部屋の電灯がいらなくなるのは8時半近くです。

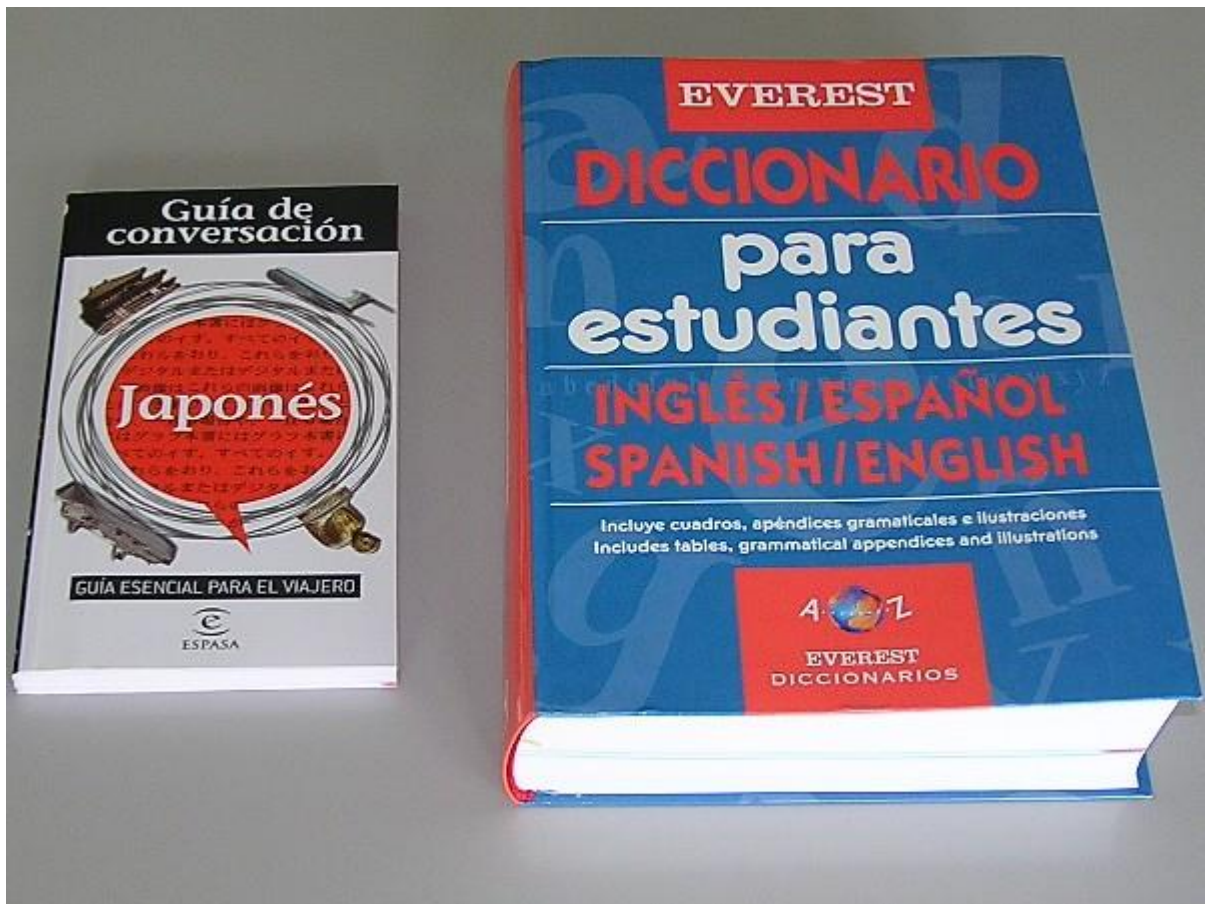


さて、いよいよセニョーラ・マルタ Sra. Marta のスペイン語教室が始まりました。先週の金曜日、彼女は約束の午前十時きっかりにやってきました。こういうところが実に普通のスペインのオバさんらしからぬところです。国鉄でさえ時間通りということとは少ないのに・・・。

この日の為にホワイト・ボードを買いました。テーブルの上においてどこからでも手を伸ばせば自由に自分の言いたいことを書いて説明できるように考えたのです。何しろ私たち、特にRは聴覚による情報処理能力が確実に退化しつつあって（要するに耳が遠くなったということ）視覚に頼るほうが楽なのです。

知らない単語をペラペラっとやられると、英語よりはスペルの見当が付きやすいとは言うものの、辞書を引くのにもっとはっきり分かったほうがいい。

この考えは成功でした。マルタも口で言うのがもどかしい時は書いて説明しようと思ったのか、コピー用紙の束を持ってきていました。ソレも使いましたが、夫々がペンを持って書き込めるホワイト・ボードのほうがもっと具合がいい。



マルタは興が乗ると立ち上がって書いていました。スペイン語の文法を教えていたことがアル、とは聞いていましたがどうやら学校の先生だったか、語学校で教えた経験でもあるのか？ マダ聞いていませんが教え慣れているという感じはあります。

語学交換とはいえ、ほとんどの時間マルタの独演に近く、私たちがマルタに日本語の手ほどきをする暇もありません。初めに、私たちは出来るだけスペイン語で話しかけるから、マルタは私たちに英語で話してもらえるとイインだけど、と頼んだのに、自分の英語がもどかしくなると、スペイン語でイイ？ と言って、とたんにペラペラッと早口のスペイン語になってしまいます。そして、ポカンとしている私達に気付くとハットしてまた英語に戻るんです。

マルタとの交換会を始めるに当たって上の二冊も買いました。左はマルタへのプレゼントのスペイン版日本語会話の本。いつかアレハンドロ（Alejandro 彼女の一人息子）を訪ねて日本に行く時の為に、と行って渡したらとても喜んでくれました。ソレと手製のカタカナとひらがなの五十音図。私達と同じように彼女も話言葉だけでなく字を書くことを憶えたい筈だし、私達も是非彼女にそうしてもらいたいと思ったのです。

右は英西・西英辞典。マルタとの接点は英語ですからこれは必需品です。

私たちが必要としたのは英西の方だけで、西英は要らなかったんですが、英西だけというのがどうしても見つかりませんでした。カアディスでは最大手と思われる本屋2軒で聞いたのにナイ、ということは本当にそういうものが出版されていないとしか思えません。何故でしょう？ 日本では、例えば英和と和英が一つになった辞書という

のは中途半端なものしかないのが普通ですね。さっぱり解りません。

これで、我が家のスペイン語関係の辞書は10冊になりました。それに西和・和西と西英・英西の電子辞書が夫々一つ、文法の参考書2冊、ラジオ講座テキスト多数。

道具立てだけは小さな図書館ですが、肝心のアタマの中身はさっぱりです。会話に関してはやっと2歳児ぐらいか？それ以下か？ でも、書くほうは何とか小学校高学年

並みかと勝手に思っているんですが、さて、マルタの判定はどうでしょうか？

マルタへのプレゼントを買う時、スペイン語・日本語の会話の本をくれと言ったら、日本語～スペイン語の本を出してきました。その本屋ではこういう小さな判の本はカ

ウンターの中の棚においてあったのです。多分万引き防止なんでしょうね。

イヤイヤ、ソウじゃなくてスペイン語～日本語のが欲しいんだけど。だってあなた達は日本の方でしょう？ ええ、ソウだけど、その本はスペインの女性へのプレゼントなんですよ。ああ、ソウだったの。というやり取りがあって、今度はこの日本語会話ガイド *Guía de conversación* を出してくれました。カアディスへは日本人観光客も滅多に来ず、多分カアディス大学にも日本人留学生はいないだろうと思いますが、こ

うして日～西会話も西～日会話も揃っているのは嬉しい限りです。

マルタには毎週A4判一枚程度の作文を書くから、その添削をする形で文法の手ほどきをして欲しいとお願いをして了解を得ました。こうすると自動的にこちらの知りたいことを重点的に聞けると思ったのです。今までは、全く手探り状態だったスペイン語も、こうして貴重な無料家庭教師を得て、これだけですぐ長足の進歩とは行かないまでも、今までのような独習よりははるかに期待できます。次回は日本語の挨拶とカ

タカナ書取りもやろうかと思っています。

2時間、殆ど独演だったマルタは、セルベサを美味しそうに呑み干すとアスタ・ルエ

ゴ *Hasta luego* マタネー、と行って帰って行きました。\*\*\*

---

## 「オベント大作戦」の巻

---

日帰り遠足のとき、最近、私たちは必ずオベント持ってでかけます。

始めは、どこにでも或るバルでタパスかボカディーヨ食べてセルベサでも呑めばイヤ、と気軽に出かけていたのですが、これがナカナカ気楽でもないのです。

スペイン、特にアンダルシアの海岸一帯は、殆どどこへ行っても人家の或るところバルは必ずあります。だから昼食をとるのに不自由することはない筈なんです、私達にとってバルでの昼食はあまり愉快でないことが多いんです。

昼食時の午後2時3時にはどこも客が一杯です。空いたテーブルがあればいいんですが、ちょっとタイミングをはずすとモウ座るところもない有様。たとえ1〜2席あいてたとしても、田舎の、小さい、夫婦だけでやっているような食堂ではテーブルに座って待っていてもナカナカ注文をとりに来てくれません。

夫婦二人だけでは調理してカウンターに並べるだけで手一杯です。だから、そういう時は自分でカウンターに行って注文して、自分でテーブルに運んだほうが手っ取り早い。ところがコレがまたソウ簡単ではないんです。

カウンターの前は地元の常連客で一杯、割り込む隙もナカナカありません。注文の順番だって何の決まりもなく、みんな勝手にアレくれコレくれと怒鳴っているんです。言葉の不自由な、「気弱な」ハポネスはナカナカそこにグイっと割り込んで行けない。気の利いたオヤジやオカミなら、目交ぜしてして注文を聞いてくれるんですが、ソウでもないと一步引いたところで棒立ちです。

こういうシーンは対面販売の店でもよく経験するところです。スーパーの中の対面販売の肉屋や、個人商店でも気の利いた店では順番札の器械が備えてあって、番号がプリントされた小さな紙切れをちぎって持っていれば、その順番どおりに注文できて混乱はありません。けれども、その器械がないところでは商店であろうが、郵便局であろうが、はては役所でさえ、常に順番待ちには閉口します。多分スペインの人はきちんと列を作って待つコトが苦手なんですね。



自然にはフォーク並びなんかはマズできないようだし、そうしなさいという表示も見たことはありません。一見チャンと列を作っているように見えても、後から入ってきて、列を作っている人を全く無視して、いきなり手近な窓口に直行してしまう人、列の前の方に知り合いがいると話しかけていつの間にかその辺に溶け込んでしまう人、

もうめちゃくちゃです。

バス乗り場なんかでも自然発生的に列を作って待つなんてことはマズありません。スペインでも北の人達の人情は大分違うらしいから、こういうマナーにも違いがあるの

かもしれません。しかし私達の行動範囲では公衆マナーは殆ど期待できません。

マルタはもともと北の人ですから、やはりアンダルシアのこういう人情風土には不満を持っているようで、交換会の初日、早くもそういう意見が飛び出しました。

曰く、アンダルシアはごく少数の地主階級がいまだに隠然たる力を持っていて、そういう一部の有力者と其の他大勢で成り立っている。教育にも力を入れていないからいつまでたっても其の他大勢は向上しない。と言う意味のことだったと思います。

ソレはかねて私たちも強く感じていたことで、スペインでも最も文化が遅れている地域ではないかと思っていました。マルタの口ぶりではその通りだったのですが、同時に、私たちにとってはソレゆえに住み易いのだということにもなります。

ともかく、並んでいる人も、カウンターの前でも、そういう行列無視の人を咎めることは殆どしません。だからマナー無視をした人もあまり罪悪感を感じていないんじゃないか？ だから、次回も又同じ行動をするに違いないのです。

小さい店で、待っている人も4～5人ぐらいまでなら誰の次は誰と自然にわかるし、新たに来た人が、誰が最後なの？と聞いていることもよく見かけます。ソレは魚屋や八百屋での話、みんなシラフですから混乱はおきないのが普通です。

ところがバルのカウンター前はソウは行きません。もうみんな二杯も三杯も入っている連中ですから、お互いの話に熱中です。話相手の話さえろくすっぽ聞いていないほど声を張り上げて自分の話に酔っているんですから、周囲の状況なんか目に入るわけがありません。自分のコパが空になれば即大声でオカワリーと怒鳴るだけ。

カウンターの中は小人数で悪戦苦闘中ですから、怒鳴られた酒を出すだけの方が楽なわけ。そりゃ、手っ取り早く一番利益率のいいのは酒を注いで出すだけですからね。



人を掻き分け掻き分け前に進んで注文を伝えることが出来たとしても、殆どの場合その料理は余り健康的なものとは言えず、野菜っ気なんか殆どナシ、揚げ物はヒラソル（ひまわり油）であげた物が殆どで、後でモタレることが多い。

呑みものにしても、カーニャ（生ビール）が当たり前。生ビールだってなんだってナンにもナイよりヤマシですが、出来ればもうチョット味の濃いビールを呑みたい。例えば小麦ビール・バイツェンとかネ。でも田舎の小さなバルではそんなもの置いてないのが普通で、ソレはないものねだりと言うもの。一方こちらはビールなら何でもイイとは行かないところが厄介です。

こういうことを散々経験した挙句、日帰り遠足はオベント持ちに限るという結論に達したのです。

そこで、この保冷バッグを買い込んで、どこへ行くにも日帰りならオベントということにしたんです。この保冷バッグは中身が空になれば折りたたんでコンパクトになるところがミソです。中身を食べちゃったら荷物はなるべく小さいほうがいい。

で、その中身はと言うと、写真の組み合わせが標準的なオベント・メニュー。主役はミニ・クロワッサン。はさむものの定番はカブラ（ヤギ）かオベハ（羊）のチ



ーズ、塩気が屋外で食べるサンドイッチに丁度いい。

肉ツケはハモン・セラーノだったり、サラミだったり、カベサ(豚の頭肉)だったり。この日はパンセタ。これは豚の三枚肉の塩漬けを独特のマリナー液に漬け込んだもので、いわば生食用ベーコンとでも言えばイイカ。

チーズには胡椒をかけて、野菜はレチューガ・ロマーナ(レタスの一種)。売っているボカディーヨ(スペイン風サンド)にはこのグリーンが決定的に欠けています。それに、一番上には勿論決め手のシラントロを1~2本。コレを右端のようにアルミ・フォイルでくるんで出来上がり。一人前5個で計10個。

其の他、保冷バッグの中身はご覧の通り、オレンジ・ジュース200ml・2パック 飲料水330ml・1本、保冷材代わりに凍らした飲料水330ml、そして当然セルベサ330ml・2缶。この日は休肝日なので、シン・アルコールで0.0%。

それにウェット・ティッシュと爪楊枝。デイ・パックの中にはエア一座布団二つ。コレで夏でも冬でも日帰りなら外食ナシでOK。余計な出費、食べる場所を探す手間、食べる場所が決まってからの鬱陶しい手続き、以上一切のわずらわしさは解消です、まさに一石三鳥。オベントがわが手にあれば、アト、必要なのは夏なら涼しい日陰、冬なら陽だまり、春秋なら風さえ当たらなければどこでもコイで、バスや電車で移動中だってOKだから時間の節約にもなる。一石四鳥か？

ところで、話はちょっとそれますが、エッセイストの阿川佐和子さんの文章にスバラしい一節を発見しました。以下、引用させていただきます。

{「私もシャンツァイ好きです」という人に出会うと、それだけで無条件に信頼したくなる。(中略)結婚するなら、まあ、まだ結婚するチャンスがあったとしたらのハナシだが、シャンツァイを嫌いな男とはしたくない。あの臭さを忌み嫌う顔を見るより、面白がる顔を見て暮らしたい。」}

(注) シャンツァイ=香菜=コリアンダー(英名)=シラントロ(スペイン名)

阿川サーン、ナニモそこまで言っていたかなくてモー。イヤー、アナタもホンットーニ素敵女性です。私たちは、今までもアナタの大ファンでしたが、これからはもう大々ファンの三乗です。



前号のガンバス・アル・ピルピルの項で、素材は「芝エビ」と言いましたが、小型のエビなら何でもいいんです。素材の味がどうのこうのという繊細なものではありませんから、4～5センチの冷凍のムキエビでOK。

要はアホ(ニンニク)の風味と唐辛子の辛味とオリーブ油の旨味で食べるのです。火の入れ方は、前号のよりこの位がいいかも知れませんが、それはお好みください。硬くしたほうがシコシコして安ワインは旨くなります。彩りにシラントロを散らすと完璧。

前号をアップロードした直後、上の写真そっくりのものを立ち読みで見かけました。それにはガンバス・アル・アヒーヨ gambas al ajillo となっていて、作り方は前号のアル・ピルピルと全く同じです。これはどうしたことでしょう。私たちが複数回外食で食べたときは、どの店のメニューにもアル・ピルピルとなっていました。

その本では、アヒーヨとはニンニクと唐辛子のソースとなっています。まあ、食べ物の命名は自由ですからどうでもいいんですが、前号でも言ったようにピルピルの意味がイマイチはっきりしないし、作り方から言えばまさにアヒーヨというべきです。

でも、ピルピルのほうが、なんとなくピリっとしてで旨そうすよネ。\*\*\*

---

## 「ヘレス空港」の巻

---

今年2月、まだカァデイスの周辺のことが良く分かっていなかった頃、ヘレス空港の下見をしておこうと行ってみました。そして、観光案内所で、空港行のバスはナイ、と言われ、ガックリした話。同じ日に同じヘレスの大手日曜大工専門店に行こうとして長時間バスを待っていたのに通過されてしまってカッカした話、憶えていますか？この一件で、ヘレス空港は見限り、ヤッパリ利用可能の最寄の空港はセビージャしかないな、と思い込んでいました。だって、空港行きのバスがないなんてちょっと考えられないでしょう？ 自分がそのバスに乗るか否かは別として、バス便のないような空港なら利用客も当然少ないに違いない。だから発着便も少ないに決まってる。そんな空港はとても期待できないと思っていました。

この際、利用できる鉄道がナイと言うのは大前提です。空港からほんの4～500メートル位の所を鉄道が通っているにも拘わらず、です。空港の周り是一片の畑で、空港駅を造るのに特に問題があったとは到底考えられません。この国では各交通機関が互いにリンクして利用者の便を図るという考えはハナっからないと思えます。鉄道と中長距離バス・センターが隣接しているところも私達の知る限り多くはありません。カァデイスも然り。市内バスでさえ「駅前」という停留所はないし、日本ではごく当たり前の〇〇駅行というバスは私達の行動範囲では見たことがありません。鉄道とバスは徹底的に別物、お互いに敵対することしかアタマにないのか、とさえ思える状況です。乗り継ぎ客は仕方なく歩くかタクシーに頼るしかないんです。

とにかく、今年の春まではヘレス空港行のバスはなかったのです。ところが、nの同僚夫婦が今年の夏カァデイスに来たのだそうで、彼らはヘレス空港からバスに乗ったというんです。そんなバカな、ヘレス市内からでさえなかったバスがカァデイスからホントニあるのか？ 早速カァデイスのバス・センター、例の馴染みの案内嬢に聞きに行きました。アリマシタ、間違いなくカァデイス発ヘレス・バスセンター経由ヘレス空港行というバス路線が出来ていたんです。



Horarios Autobús Metropolitano Líneas M-050 y M-051 al Aeropuerto de Jerez

Cádiz / El Puerto de Sta. María / Jerez / Aeropuerto

# Al Aeropuerto en BUS

De Lunes a Viernes Laborables - IDA Monday - Friday (To airport)				De Lunes a Viernes Laborables - VUELTA Monday - Friday (From airport)			
CÁDIZ	EL PUERTO DE STA. M <sup>a</sup>	JEREZ	AEROPUERTO	AEROPUERTO	JEREZ	EL PUERTO DE STA. M <sup>a</sup>	CÁDIZ
5:15	5:45	6:00	6:20	6:30	7:00	--	7:45
6:15	6:45	7:00	7:20	7:30	8:00	8:15	8:45
7:00	--	7:45	8:15	8:30	9:00	--	9:45
8:00	--	8:45	9:15	9:30	10:00	--	10:45
12:00	--	12:45	13:15	13:30	14:00	--	14:45
14:00	--	14:45	15:15	15:30	16:00	--	16:45
15:00	--	15:45	16:15	16:30	17:00	--	17:45
17:00	--	17:45	18:15	18:30	19:00	--	19:45
18:00	18:30	18:45	19:15	19:30	20:00	20:15	20:50
19:00	--	19:45	20:15	20:30	21:00	--	21:45
20:00	--	20:45	21:15	21:30	22:00	--	22:45
21:00	21:30	21:45	22:15	22:30	23:00	23:15	23:45

Sábados Domingos y Festivos - IDA Sat - Sun - Public Holidays (To airport)				Sábados Domingos y Festivos - VUELTA Sat - Sun - Public Holidays (From airport)			

全く、なんちゅうこっちゃ。こんな当たり前のことがどうして今年春までなかったのか？ 空港が出来てから一体何年経つのか？ その間この界隈の市町村の交通関係の役所は空港に行く市民の足をどうする気でいたのか？

この時間表を見て、便数が少ないナンテ行ったらバチが当たります。平日には12便もあるじゃないですか。しかも空港からの最終便は22時30分までアル。そして、所要時間は65分から75分。タクシー・鉄道乗り継ぎに較べると格段の便利さ。

この辺りの他の中長距離路線に較べれば涙が出そうな便利度です。他の殆どの路線は一日に4~5便、多くても6~7便なんてのが殆どで、つい、この間行ったサンルーカル・デ・バラメーダ、あのドニャーナ国立公園の町、マンサニーヤというイイ酒を造り出す町、そこも距離的には殆ど同じなのに平日は8便、土日には5便しかありません。どうやらこの路線は今年の夏前にEUからのバカンス客を当て込んで開発したものでしょう。願わくば「夏だけ」なんていわないで欲しい。

まあ、とにかくコレで空港までの足は出来た。アトは発着便がどんな風か、日本からのアクセスに利用可能な便があるかどうか、調べに行ってきました。



これが空港ビル全景。ホントです、コレっきり。バホ(地上階)とプリメーラ・プランタ(1階)しかない、日本式に言えば2階建て。これを見ただけで発着便の様子も大体見当がついちゃいますね。

但し我が家からの便利度は大幅にアップ。旧市街にあるカアデイスのバス・センターまで行かなくても、ウチから徒歩5分の病院前という停留所で乗れて、そこからヘレスのバス・センターを経由して約1時間で空港横付けです。バスには勿論荷物室もあるので電車・バス乗り継ぎよりはるかに楽チンです。

また、ヘレスのバス・センターも今まで私たちが知っていたのとは違い、あのタイル絵が綺麗な国鉄駅に隣接の新しいターミナルが出来ていました。こんな風に駅の隣に中長距離バス・センターがあるところはここ以外に知りません。マラガも現在建設中の駅舎が出来上がればそうなるはずですがソレはまだ先のことでしょう。

スペインもEUの一員になってから少しずつ色々なものの考え方が変わりつつあるのかも知れません。マルタが嘆くようなアンダルシアの人々の後進性も少しずつ改善されてはいるのでしょう。私達が来た三年前からでも変わった点は多々あります。

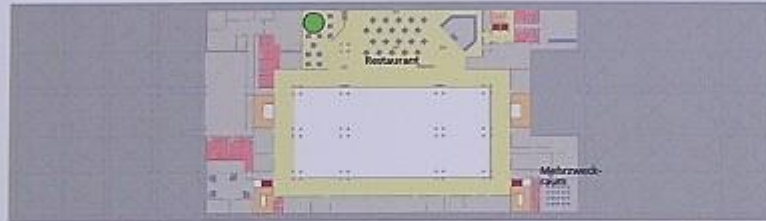


Es wird eine gute Atmosphäre schaffen. Helfen Sie uns.



Suchen Sie die Punkte für Raucher

OBERGESCHOSS



ERDGESCHOSS



PUNKT FÜR RAUCHER

これは構内全図。元々は喫煙指定場所の表示のためのものですが構内案内の役にも立っています。もっとも、中央のロビーに立てば殆ど全部を見渡せて、案内図などは不要な位一目瞭然の小さい空港です。

この案内図、ドイツ語表示ですね。この空港には、一瞬どこかドイツの田舎空港へ来てしまったかと錯覚しそうになるほどドイツ人が大勢いました。私たちが行ったのは水曜日午後で、丁度ハノーバー行の出発便と同じくハノーバーからの到着便がある時間帯でしたからドイツ人乗客のほかに見送り・出迎えのドイツ人もいたので特にそう感じたのかもしれません。

構内の表示もスペイン語のほかは英語・ドイツ語で他の空港ではよく見かけるフランス語の表示はありませんでした。どうやらこの空港は、前に紹介したチクラナと言う町のドイツ村とも言うべきリゾートのドイツ人の便宜を第一に考えているフシがうかがわれます。今までなかった空港行きバスが突然出来たのもドイツ人コミュニティーの突き上げがあったためか？だからバスもヘレス迄だけでなくカアディス迄としたのか？ カアディスからチクラナへのバスは頻繁に出ますからね。



正面玄関から入った中央ロビー。右手がチェックイン・カウンター。写真中央の奥が到着ゲイト、写真手前の方に出発ゲイトがあります。右手階上は送迎デッキ兼用のカフェテリア、左手は各航空会社の事務所になっています。

肝心の発着便については収穫は多くありませんでした。国内はマドリードが毎日8便でダントツ、あとはバルセロナ、マジョルカ、テネリフェなどでトータル4空港。国外便となるとモウこれはドイツ各空港のオン・パレード。ベルリン、ブレーメン、ケルン、デュッセルドルフ、フランクフルト(ハーン)、フランクフルト(国際空港)、ハンブルグ、シュトゥットガルト、パーダーボルン、ミュンスター、ハノーバー、ニュールンベルグ、ミュンヘン、以上13空港。

その他の国ではベルギー1箇所、フランス1箇所、イギリス2箇所、スイス2箇所、ルクセンブルグ1箇所、以上7空港。ちょっと異様だと思いませんか？

これなら、チクラナのドイツ村が騒げば、市交通局も州政府も空港行バスの開設に動かざるを得ないでしょう。何しろドイツ人の落とすお金はイギリス人のそれに次いでこの州にとっては大きな財源ですからね。



(チェックイン・カウンターは1～13、この乗客は全部ハノーバー行きドイツ人) きて、日本からのアクセスに使いそうな空港と言うとフランクフルト国際空港、パリ・シャルル・ド・ゴール、位しかありませんが、残念ながら両方とも週1便のみで問題外です。フランクフルト・ハーン空港は毎日1便ありますがフランクフルトで空港間の地上移動をしなくてはなりません。

同じ空港間移動が必要なところでもっと良さそうなのがロンドンです。日本からロンドンへの便は殆どがヒースロー着で、稀にガトウィック着のものもあります。しかしヘレス空港と結ぶ便は、同じロンドンでも日本ではあまり知られていないスタンステッド Stansted という空港からだけ、ここからなら1日2便飛んでいます。

私達もまだ実際にこの空港を利用したことはないのですが、あまりはつきりしたことは言えませんが、旅行案内書を孫引きすると次の通りです。

まず、鉄道はスタンステッド・エクスプレスというのがリヴァプール・ストリート駅から所要時間42分、早朝から深夜迄1時間に2～4便運行されていて料金は8£。バスは、ヴィクトリア・コーチ・ステーションから所要時間1時間半、24時間運行で早朝から深夜迄は1時間2便、深夜から早朝迄は1時間に1便、料金8£は同じ。これは私達がスペインへ引っ越す時調べた資料で2002年のものですから、料金は多少値上がりしているかも知れませんが、大幅な変化はないと考えていいでしょう。スペインに直行しようとせず、ロンドンで何泊かしてスタンステッドからヘレスに飛び、帰りもロンドンで一泊するというスケジュールが時間のある方にはお勧めです。





(送迎デッキ兼カフェテリアから見た出発便。乗客はゲイトから地上を歩いて搭乗) スタンステッド～ヘレス間の便は格安運賃で近年急成長したライアネアー Ryanair ([www.ryanair.com](http://www.ryanair.com)) という会社独占です。

というわけで、日本～ロンドン～ヘレスというルートは可能だと思いますが、旅行時間が限られている方には乗り継ぎに問題があるかもしれません。そもそもスペインへの自由旅行そのものが時間制限のある方には極めて難しいと言えます。

一通り空港内外を見てまわり、案内所で発着時間表を貰いました。夏の時間表しかなかったもので、11月～3月の冬季時間表だと上記のようにスタンステッドから1日2便あるかどうかは不明です。以下は全て夏季時間表を基準にしたハナシです。

結論は、カアディスに来るには、空港に降りてからの便利度では一番だと言うこと。あとはヘレスへ飛ぶ便がある欧州各地の小空港へいかに日本からアクセスできるかにかかっています。又、その都市で時間をつぶすのを苦しめないで済むか否かも・・・。ロビーのベンチで例のクロワッサン・サンドのオベントを食べてから上のカフェテリアに移動。空港のこういう所はどこでも暴利をむさぼっていてセルベサなんかも市中の三倍ぐらい平気で吹っかけています。全く腹の立つこと。

このカフェテリアからの眺めは素晴らしく、搭乗ゲイトから歩いて飛行機に向かう人がはっきり識別できる近さです。普通の空港では送迎どころか見送りや出迎えの人が相手を識別することは到底不可能で、あの機がソレだと確認するのが精一杯ですね。

ここでは送迎デッキという言葉は使っていませんが、まさに送迎にはぴったり。



(シェリー酒の町の空港らしく、カフェテリアのテーブルもヘレス＝シェリーの樽)



(乗員乗客の搭乗がすんでエプロンから滑走路に向かう飛行機。エプロン脇にも樽。

この DRY SACK はお気に入りの銘柄の一つなのですが、市中では品薄で・・・) こんな風にあちこちに酒樽がごろごろしていかにもシェリー酒の町ヘレスです。これから飛び立ってゆく飛行機をこの角度で見ることも普通の空港では余り経験できないですね。反対に着陸した機が入ってくるのを真正面から見ることも出来ます。





この鳶は写真の4枚目・5枚目にあるようにロビーの周囲の壁に垂れ下がっているんですが、よく見てくださいスズメがいるでしょう？ ここには一羽しか写ってませんがこの空港内には沢山のスズメがいてカフェテリアのパンくずを拾ったりロビーを飛び回っています。ここにいれば天敵も来ずエサにも困らず言うことナシでしょう。

さて、最後に欧州のどの空港からヘレス空港へ飛べるか列挙しておきます。カアディスへの旅をお考えの方、参考にして下さい。スペインとドイツは前述の通りです。

(ベルギー) ブリュッセル、(ルクセンブルグ) ルクセンブルグ、(イギリス) ロンドン・スタンステッドとマンチェスター、(スイス) バーゼルとチューリヒ、(フランス) パリ・シャルル・ド・ゴール。

そして、日本からの直行便があるところは前述のドイツを含めて次の通りです。

ロンドン、フランクフルト、ミュンヘン、パリ、チューリヒ、以上5都市。

このうちロンドン・スタンステッドからが毎日2便、フランクフルト・ハーンからが毎日1便、あとはいずれも週1便というのが寂しいところです。以上を総合すると、

やはりロンドン経由ルートしか思い浮かびません。

ドイツの各空港はフランクフルト・ハーン以外は週1便ですが、長期休暇を前提としている彼らにとっては、週イチで何が不足なの？ビジネス旅行じゃあるまいし、ということになるのでしょうか。コスタ・デル・ソルではイギリスに先を越されたので、コスタ・デ・ラ・ルースはドイツだ、と植民地化に力を入れているのでしょうか？\*\*

---